第〇学年　算数科学習指導案

令和　年　月　日(　)　校時
小学校　年　組　名
授業者

共同研究者

1　単元名「○○○○」(教科書名)

2　単元の目標

(1)【知識及び技能】

(2)【思考力・判断力・表現力等】

(3)【学びに向かう力,人間性等】

3　単元について

(1)単元観

平成29年告示小学校算数科学習指導要領解説(以下、学習指導要領解説)

①本単元の学習を関連する(既習・未習)指導内容、系統性
②本学習内容で働かせる数学的な見方・考え方を明記する

(2) 児童観

本単元の学習を関連する児童の姿(諸調査結果等データや教師の主観も含めた児童の日常から、よさや課題など)を明記する。

(3) 指導観

① (2)児童観から、児童の実態を踏まえた指導の工夫や手立て、授業の意図など明記する。
②「自立した学習者」育成を支える4つのポイントを意識する学習活動、指導について明記する。
【自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成】

(4) 校内研修テーマとの関わり(2年研、**中堅研**については、個人のテーマとの関わりを記述する。)

本単元の授業を通して、どのように校内研修のテーマに迫っていくか、児童生徒にどのような変容を期待するのかを具体的に記述する。

4　単元の指導計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①～について理解している。 ②～を知っている。 ③～することができる。(技能)	①～することができる。 ②～することができる。	①○を考えようとしている。 ②○について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③○を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

(2) 働かせる数学的な見方・考え方

〈記入例〉○○○に着目して捉え、△△△を用いたり、□□□を関連付けたりしながら、論理的、統合的・発展的に考える。

(3) 単

5　単

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の内容も参照すること

時	学習目標(●)	・学習活動(◆)　○予想される児童のつまずき ◇教師の手立て	【評価の観点】評価方法　◎記録に残す評価
1			
2 ・3 ・4			
5			
6			

6 本時・学習のまとまり

(1) 本時のねらい(目指す児童の姿)

(2)本時の評価規準

(3)本時で働かせる見方・考え方

(4)展開(赤字:例)

過程	指導と学習活動 【予想させる生徒のつまずきや反応】	評価と配慮事項 【教師の見取りと手立て】
	●問題把握(つかむ) ・前時の振り返り、本時のめあて、学習活動の確認等 〈予想される生徒の反応〉 ●見通しを立てる。(見通す)	・ICT活用 (例)問題を視覚的に捉えさせ、課題を見いだすために活用。 ※ICT(1人1台端末)を活用する際は、ねらいや目的「何のために」を明記する。
	●問題解決(考える・深める) ・自力・ペア・グループ・全体等 〈予想される生徒のつまずき〉	〔具体的な手立て〕
	●まとめ・振り返り ●適用問題	【評価場面】態①:ノート
		※Bと判断される状況を、 具体的な児童生徒の姿で記す。 ※評価対象を明記する。

7 板書計画(例)

○問題(場面イメージや問題理解の図や吹き出しなど)
○めあてや学習課題
○見通し
○本時のねらいにつながる児童の考え方や解法、図や式、表などの数学的な活動
○まとめやポイントなど
○適用問題